

# 特集Ⅲ

## 未来医学研究会のいま

### 新役員よりごあいさつ

#### 副会長就任挨拶

日本光電工業株式会社  
荻野記念研究所 所長  
山森 伸二



この度、未来医学研究会の理事及び副会長に就任致しました日本光電工業(株)の山森伸二です。理事就任早々に、副会長そして今年の第39回未来医学研究会大会の大会長を仰せつかりました。この急展開は予想だにせずさすがの私も驚いています。

私は、1984年のバイオメディカル・カリキュラムの15期生です。その年のテーマは「脳と2001年」だったと記憶しています。丁度岡野先生がユタ大学留学から戻られた年で、細胞シートの基礎である温度応答性ポリマーの講義を受けた記憶があります。あれから30年以上を経て、今や細胞シートは臨床実用され、その広範な臨床適用が最も期待される先端医療技術となりました。これも私にとっては予想だにできない展開でした。しかし、このバイオメディカル・カリキュラムの縁があったからこそ、当社もこの細胞シートの実用化の一翼を担う役目を果たすことになったと思っています。

先端医療技術と言えば、2001年に米国スタンフォード大学で開発されたバイオデザインプログラムの日本版が東北大学、東京大学、大阪大学で昨年スタートしまし

た。本プログラムによりイノベーションを牽引する人材を育成し、医療機器におけるイノベーションの活性化と日本の医療機器産業の発展に寄与することが目的です。しかし、東京女子医科大学ではすでに今から半世紀近く前からバイオメディカル・カリキュラムをスタートし、企業を中心としたその卒業生はすでに数千人規模となっています。日本の医療機器産業界においてこの卒業生たちの寄与や貢献度は計り知れません。櫻井先生をはじめとする先達の先見の明には驚かざるを得ません。

バイオメディカル・カリキュラム卒業後も一企業に拘らずに勉強会を継続しているグループがいます。製薬企業と医療機器企業など、異種業種間のコラボレーションはイノベーションの萌芽でありその活性化が今後益々期待されます。未来医学の発展を目指し、未来医学研究会及びバイオメディカル・カリキュラムのさらなる飛躍を期待したい。

#### 職歴

1979年 日本光電工業株式会社  
2009年 日本光電工業荻野記念研究所所長  
2011年 日本光電工業執行役員  
2014年 日本光電イノベーションセンタ(ボストン)社長兼任

#### 所属学会

日本生体医学理事  
日本医療機器学会理事

#### 副会長就任挨拶

東京女子医科大学 先端生命医学研究所  
所長・教授  
大和 雅之



1998年に東京女子医科大学に入職して以降、先端生命医学研究所の一員として未来医学研究会の活動に長年参加し、昨年4月に先端生命医学研究所の所長に就任したのを機に未来医学研究会の副会長を拝命いたしました。微力ではありますが、これから会員の皆様とともに未来医学の普及と未来医学研究会の発展に寄与すべく活動に励んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2015年大会での講演の中でお伝えしたとおり、要旨集の作成にあたり事務局に提出した講演要旨は、当初

大幅に紙幅を超過していたため短縮版を要旨集に収録したが、編集部の御好意でオリジナル版を本機関誌今号に掲載していただきました。この中で、未来医学研究会への私の期待を正直に述べているのでご読いただきたい。

一点強調したいのは、特に会費の定常的納入の促進を目的として、本機関誌を、会員からの情報発信の場とすることを強力に進めたいと思っている。会員からの近況報告、すなわち会員短信(移動、昇任などの報告)、寄稿、訃報といったものを積極的に募り掲載したい。もちろん訃報はないに越したことはないのであるが、さらに開発に苦労した製品の上市に際して、その開発の自慢話や苦労話、あるいは現在困っている課題、問題、思い出を語れる場として欲しい。

機関誌の編集方針に関して、会員の皆様から忌憚のないご意見をお聞かせください。

## 幹事就任挨拶

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所  
准教授

松浦 勝久



未来医学研究会内縦横の連携強化を2015年度より未来医学研究会幹事を拝命いたしました。本研究会の発展に微力ながら貢献できれば幸いです。

私は、iPS細胞の大量培養技術開発を基盤に、主に心筋、脾臓、甲状腺など実質細胞の補充が必要な再生医療の実現および疾患の分子機序解明を通じた創薬を目指し、日々研究開発をしている一方、本学循環器内科で心筋症を中心とした心不全診療に携わっています。

未来医学（未来医療）は、研究者のみの努力で達成しうるものではなく、産官学連携そして綿々と続く人的ネットワークを土台とした継続的な研究開発が必須と考えます。未来医学研究会は、まさにそれを体現する最適な場であるはずですが、現状十分に機能していると

は言えません。BMCを基盤とする横（同期）のつながりは、卒業後も多少維持されているものの、本年度で47年目を迎えるBMC卒業生の縦のつながりは、残念ながら大変脆弱のように感じます

解決策の一つとして、未来医学研究会の同窓会機能の向上があり、その方策として、まずより多くのBMC卒業生に未来医学研究会大会に参加してもらうことが挙げられます。例年、未来医学研究会大会では、前年度のBMC未来医学セミナー優秀者の発表以外は、基調講演が主ですが、次回未来医学研究会大会では、大会長の山森様にご尽力いただき、BMC卒業生によるポスト未来医学セミナーセッションを設ける予定です。今後の未来医学研究大会でも、BMC卒後5年ないし10年の方に未来医学へ向けた進捗報告をしていただくセッションを企画し、ご発表いただく卒業生のBMC同期の方々には、より多く未来医学研究会大会にご参加いただき、卒業生同士の縦の関係を密にしていいただき機会にしていただければと考えております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

## 幹事就任挨拶

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所  
講師

小林 純（BMC32期）



昨年より未来医学研究会幹事を拝命いたしました。大学での専攻は化学工学でしたが、修士課程2年生のとき、バイオメディカル・カリキュラム受講の機会を得て、当時は断片的にしかわからなかった医学、先端医療を体系的に学ぶことができました。現在、医理工の様々なバックグラウンドの研究者が在籍する東京女子医科大学先端生命医科学研究所で、バイオメ

ディカル・カリキュラム運営のサポートを行いながら、温度応答性高分子を用いたバイオマテリアル、再生医療研究を進めています。研究者になったのは、先端生命医科学研究所とバイオメディカル・カリキュラムで学んだことが1つの契機になりました。

私の役割は、研究会を活性化することだと思っています。まずはFacebookに開設した交流広場「MIRAI」に学会参加報告などを投稿しています。また、会員の皆様にとってインセンティブのある大会企画等にも取り組みたい所存です。多くの会員が大会に参加いただくことを期待しています。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 幹事就任挨拶

東京女子医科大学 先端生命医科学研究所  
助教

関谷 佐智子



このたび、未来医学研究会の2014～2016年の任期にて僭越ながら幹事を拝命致しました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

私は、2003年から先端生命医科学研究所にて心筋内の血管再生機構の開発から始まり、現在では血管から派生した腎臓再生と再生医療開発に向けて鋭意研究遂行中です。カリキュラム受講生の方とは未来医学と実習で交流をさせて頂き、よい刺激を頂いております。毎年のBMC未来医学セミナーのテーマは「30年後の医療」です。

BMCの卒後研究・教育の場として、未来医学研究会は発足が昭和53年（1978年）ですので、2008年前後から実際の30年後に突入しております。1970年代は、CTやMRIの開発が進み、体外受精で初めて子供が誕生するという著しい科学の発展が起りましたが、HIVの発見により人類を脅かす感染症との戦いが始まっています。21世紀になり、当時想像したどのくらいの医療が実現し、何がまだ課題として残っているのか、未来医学を考えて30年後を迎えたBMC卒業生と、未来医学セミナーに取り組んで間もないBMC卒業生の相互を高めるコミュニケーションの場として未来医学研究会を盛り立てていけるよう、幹事として邁進していく所存です。若輩者で至らない点、多々あるかとは思いますが、何とぞよろしくお願い致します。